

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課

担当課長名：前佛 和秀

事業名 一般国道210号 <small>よこせ</small> 横瀬拡幅 <small>おおいた</small> 大分市 <small>よこせ</small> 大字横瀬 起終点 自：大分県 <small>おおいた</small> 大分市 <small>よこせ</small> 大字横瀬 至：大分県 <small>おおいた</small> 大分市 <small>よこせ</small> 大字横瀬	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局	延長 1.5km	
事業概要 横瀬拡幅は、国道210号の交通混雑の緩和や交通安全性の向上等を目的とした事業である。				
H28年度事業化	H15年度都市計画決定 (一年度変更)	H30年度用地着手	一年度工事着手	
全体事業費	約46億円	事業進捗率 (令和2年3月末時点)	12% 供用済延長 0.0km	
計画交通量	28,000台/日			
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.2 (残事業) 2.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 35/42億円 (事業費：31/38億円) (維持管理費：4.7/4.7億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 92/92億円 (走行時間短縮便益：80/80億円) (走行経費減少便益：8.7/8.7億円) (交通事故減少便益：2.9/2.9億円)	基準年 令和2年
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=2.0~2.3 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.0~2.3 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.1~2.3 (事業期間±20%) 【残事業】交通量：B/C=2.4~2.8 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.4~2.9 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.5~2.7 (事業期間±20%)				
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・円滑な車両走行が確保されることで、交通混雑の緩和が期待される。 ②交通安全性の向上 ・国道210号の混雑が緩和し、交通安全性の向上が期待される。 ③安全な歩行空間の確保 ・狭い歩道に自転車が占有しており歩行者の安全性に不安も多い。自転車と歩行者の分離により、歩行者の安全性向上が期待される。 ④生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減 (CO ₂ , NO ₂ , SPM削減)				
関係する地方公共団体等の意見 大分市・由布市の2市の首長・議会議長等で構成される国道210号改修促進協議会（会長：大分市長）等により早期整備の要望を受けている。(令和元年7月)				
県の意見 「対応方針（原案）」案 継続。 早期整備を強く望んでいるところであり、事業の継続をお願いしたい。				
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。				

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

大分市の人口は減少傾向にあり、一世帯あたりの自動車保有台数は大分県平均より低いものの九州全体と同程度となっている。

交通量は、平成22年の高速道路無料化社会実験の影響により一時減少したものの、平成27年はほぼ横ばい。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成28年度に事業化、用地進捗率23%、事業進捗率約12%（令和2年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。